

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 菰野町	対談項目1 知事と基礎自治体の長の住民に対する関わりについて	児童虐待について	<p>認識として、児童虐待は市町村がやるものではなくて、県がやるべきことと市町村がやるべきこととがあって、さらに連携する部分もあるというところが重要である。</p> <p>どうやって機動性のある、柔軟性のある動きをしていくかというところが必要で、人を充てた、組織を変えた、だけではなく、現場でどう動いていくのかというところが一番重要で、そのあたりを県としてどう考えているのか。</p>	<p>昨年の桑名、四日市での乳幼児死亡事件を受け、今回は、介入型の部分を強化、あるいはリスクアセスをきっちりやるという部分と、一方で市町がそれぞれに相談機能を果たしていただく部分のサポートを体制整備した。仕組みは一定整備したが、これから魂を込めるのが大事だというご指摘はまったくそのとおりであり、コミュニケーションの中で、事例を積み重ねていく中で、そういうことを考えていきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 菰野町	当日追加項目1 予算編成に関する 市町との協議について		<p>田光に対する環境保全型支払い交付金を県が予算を固めてから今年は半分にするという話になった。去年、放課後児童クラブの話でさんざん補助金のあり方についてやって、事前に県は市町と十分に協議をしようと言っていたが、若干また同じようなことが繰り返されているなど考えている。これから補正予算を含みで考えていくのかもわからないが、もう一度その辺の認識を改めていただく必要があるのではないか。これは県政全体においてそういうことをちょっと感じている。</p> <p>せっかく国が1/2県が1/4町が1/4という制度の中で、県がそれを1/8にしたというのはちょっとどうなのか、そこで県と市町はどういう関係にあるのか伺いたい。</p>	<p>環境保全型の交付金を中心として、市町との予算編成における協議が不十分な案件が繰り返されているということについては、本当に申し訳なく思っている。昨年の放課後児童クラブの時に苦しい思いをした中で、また今年そういうものが繰り返り起こったということは、市町の皆さんとの十分な協議、ご理解いただくことの徹底、そういうことの組織への浸透がしっかりなされていないということだと真摯に受け止めて、26年度においてはそういう繰り返しがないようにしていきたいと思う。環境保全型の交付金においても、今、要望額をもう一度それぞれ聴いて調整させていただくので、その中でなんとか要望額を満たしていけるように対応を相談しながら考えさせてもらおう。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 菰野町	当日追加項目2 制度設計の構築について	風しんワクチン接種 緊急補助事業とみ え森と緑の県民税 について	<p>制度設計を構築していく際に注意を払ってほしいのだが、風しんの件で菰野町は23歳以上の住民に対しての助成制度としたが、構築するのにあまりにも時間がなかった。火曜日に照会がかかって金曜日に知事が発表するというタイムスケジュールで言われると、県と一緒に議論をする時間がない。もう少し平場の議論がほしい。</p> <p>同じことがあって、森林環境税だが、6月19日に治山ダムの危険個所を6月25日までに報告してくれという照会があったが、それは無理だろう。現場主義というのであれば、現場へ行って確認する。市町の職員と県の職員が一緒になって現場へ入って、時間がかかってもいいので実態をきちっと掴んでからあげるべき。</p>	<p>特に風しんについては、議会のスケジュールと国との関係での動きの見極めが遅かったというのがあるかもしれない。共に実態把握、協議ができる時間的な確保はしっかりしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 菰野町	当日追加項目2 制度設計の構築について	福祉分野の交付金について	医療費のこと、予防接種のこと、検診のことがあったりして、福祉分野に限って、県として総合交付金みたいな形で交付金として市町に支出してはどうか。市町でできるところは、自分たちで選択してやってくれというようなやり方の制度設計はできないか。	それはおもしろい。それが実現可能かどうかは精査しなければいけないが、私自身が国に対して、少子化対策においては県内でも地域ごとに優先度合いが違うので地域が創意工夫しやすい交付金的なものを創設してほしいと言っている。そういう意味では、福祉分野においては現場においてそれぞれ事情が違うと思う。自分が国に対して主張していることと共通項があると思うので、一気にできるかどうかは分からないが庁内でしっかり議論したい。
5 菰野町	当日追加項目3 東京の営業拠点について		知事の思いとして、広くあまねく三重県を知ってもらえるのか、コアな三重県ファンを作るのか、聞かせてもらいたい。	基本的な軸としては、コアなファンを作る。薄く、あまねく、広く三重県の商品をすべて、人気のある物からない物まで並べ続ける、売れ行きやニーズに関係なく並べ続けるということはしないでおこうと思っている。一方、知名度のない商品にまったくチャンスがないのではいけないので、商品はぐるぐる回して、その中でトライアルをやってみるとか、手法でそういう部分はカバーしていきたい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 菰野町	当日追加項目4 三重県の観光キャパについて		今の三重県の観光キャパで入込客がマックスでどれくらいまでいけるのか。例えば湯の山温泉でいうと、年間30万人が泊まろうと思うとキャパ的にちょっと微妙である。その見極めで、それ以上になると粗雑になる。なんでもいいからたくさん来いよというのでは、三重県のバリューが下がると思うが、その辺はどうか。	おっしゃるとおりである。入込客数の目標でいうと、今のキャパで27年度末で4000万人。次の計画で、5年間か4年間になると思うが、どういう施設整備とか、全体のトレンドも含めて目標を立てている。今回の計画で観光消費額を一番の目標に持ってきた。中部9県で比べても日帰り客の三重県で消費する額が極めて低い。宿泊客はそんなに遜色ないが、日帰り客の消費額が低いということがあるので、そういう部分の対策も含め、まず今回の計画では4000万人を目指し、次の計画ではそういう部分も含めて新たな基軸を考えていかなくてはいけないのかなと思っている。